

借都川

愛南町

洪水ハザードマップ



＼自宅の浸水深や避難所を確認し、いざという時に備えましょう！

令和2年3月

洪水浸水想定区域について

近年、全国各地で記録的豪雨が多発しています。愛媛県内においても、平成30年7月豪雨により大規模な浸水被害が発生しました。このような中、迅速な避難や被害の軽減につなげるため、愛媛県が管理する僧都川において、洪水浸水想定区域図（想定最大規模・計画規模）や家屋倒壊等氾濫想定区域図が公表されました。

これまでの洪水浸水想定区域は、対象降雨を河川整備の計画規模（年超過確率1/50程度）としていましたが、想定し得る最大規模の降雨（年超過確率1/1,000程度）の浸水想定区域が示されています。

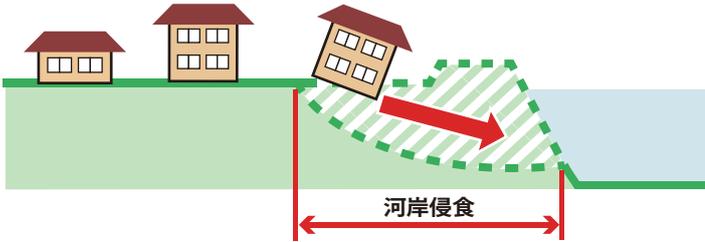
僧都川 想定最大規模：6時間総雨量 582 mm

家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食・洪水氾濫）

家屋倒壊等氾濫想定区域とは、堤防が決壊することで発生する激しい流れにより、家屋などが流されるおそれのあるエリアです。

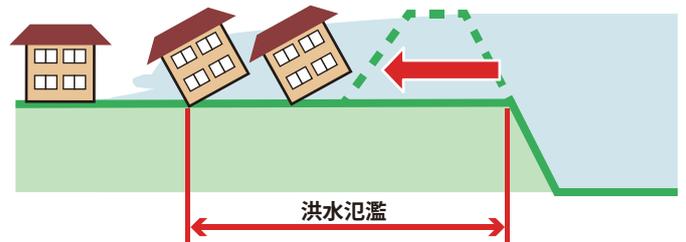
河岸侵食

過去に発生した河岸侵食の事例をもとに、河川の幅や河岸の高さ等の形状から、家屋が倒壊する危険性があると想定されたエリアです。



洪水氾濫

想定最大規模の降雨による洪水であふれた水によって、一般的な構造の木造家屋が倒壊または流出してしまう危険性が高いと想定されたエリアです。



自宅の状況（住んでいる場所など）によって避難行動が変わります！

あなたの避難行動は？

気象状況等	浸水想定区域内					浸水想定区域外
	家屋倒壊等氾濫想定区域 河岸侵食内	洪水氾濫内	1階建て	2階建て	3階建て以上	
低 台風がやってくる 5日前～前日	テレビやラジオで気象情報を確認する。 自宅や庭の整理・飛散防止、屋根の補修をしておく。 非常持出品の準備や家族同士で連絡体制の確認をしておく。					
台風の襲来	いつでも避難ができるように準備する。 高齢者などの避難に時間がかかる方は避難を開始する。					
危険度 ↑	大雨・洪水警報の発表など	高齢者等避難開始	木造	非木造		
	立ち退き避難 (垂直避難不可)	立ち退き避難 ただし、木造以外で浸水深より高層階への避難が可能であれば垂直避難	立ち退き避難が望ましいが、階数によっては垂直避難も可 <浸水深> 0.5m未満 自宅待機も可 0.5～3.0m 2階以上へ垂直避難 3.0～5.0m 3階以上へ垂直避難			外出を控え、側溝から水があふれるなどの場合には 2階以上へ緊急避難
高	避難指示（緊急） 氾濫発生					

避難指示（緊急）の発令により、安全な場所への避難行動を行う。ただし、既に氾濫が始まっているなど、立ち退き避難がかえって危険な場合には2階以上へ垂直避難する等の命を守るための最善の行動をとる。

災害に関する情報を知っておこう

水害・土砂災害等の防災情報の伝え方が変わり、5段階の警戒レベルを明記して、提供されることになりました。警戒レベル4が発令された地域にお住まいの方は速やかに避難してください。

また、町からの避難勧告等の発令に留意するとともに、避難勧告等が発令されていなくとも、それぞれの警戒レベルに相当する情報も参考に、自ら早めの避難の判断をしてください。

警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなることから、警戒レベル3や4の段階で避難することが重要です。

警戒レベル	避難行動等	避難情報 (町)	警戒レベル相当情報	
			警報等 (気象庁)	水位到達情報 (県：僧都川)
警戒レベル 5	既に 災害が発生 している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。	災害 発生情報	大雨 特別警報	
警戒レベル 4 全員避難	速やかに避難先へ避難 しましょう。 公的な避難所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 ・ 避難指示 (緊急)	土砂災害 警戒情報	氾濫危険水位
警戒レベル 3 高齢者 ^等 避難	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は避難 をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・ 高齢者等 避難開始	大雨警報 洪水警報	避難判断水位
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、 自らの避難行動 を確認しましょう。		大雨注意報 洪水注意報	
警戒レベル 1	災害への心構え を高めましょう。		早期 注意情報	

参考：僧都川の水位について

僧都川の御荘水位観測所では、次の避難判断水位や氾濫危険水位が設定されています。水位情報は国土交通省の川の防災情報などで確認することができます。避難の判断の参考にしてください。

水位の名称	水位（御荘）	内容
氾濫危険 水位	2.45m	洪水により多くの家屋浸水等の被害を生じさせる氾濫の起こるおそれがある水位
避難判断 水位	2.35m	住民に対し氾濫発生危険性の危険性についての注意喚起を開始する水位
氾濫注意 水位	2.20m	出水時に災害が起こるおそれがある水位
水防団待機 水位	2.00m	水防団が待機する水位

雨や洪水について知っておこう

雨の強さと降り方の目安

降っている雨を観察することで、おおよその雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるようにしておきましょう。

雨の強さ (予報用語)	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に 激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量	10～20mm	20～30mm	30～50mm	50～80mm	80mm～
人の受ける イメージ	ザーザーと 降る	どしゃ降り	バケツをひっくり 返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫 感がある / 恐怖を感じる
人への 影響	 地面からの跳ね返り で足元がぬれる	 傘をさしていても ぬれる	 傘は全く役に 立たなくなる		
災害発生 状況	 ・この程度の雨でも 長く続く時は注意 が必要	 ・側溝や下水、小さ な川があふれ、小 規模のがけ崩れが 始まる	 ・山崩れ・がけ崩れ が起きやすくなり 危険地帯では避難 の準備が必要	 ・マンホールから水 が噴出する ・土石流が起りや すく、多くの災害 が発生する	 ・大規模な災害が発 生するおそれが強 く、厳重な警戒が 必要
避難体制			準備	警戒	

洪水発生メカニズム

洪水(外水氾濫)とは、豪雨によって河川の水量が急激に増加することにより、水が堤防を越えたり、堤防が崩れて住宅地や農地などに水があふれることです。この時、あふれた水によって家や車が押し流されるなど、浸水被害が発生します。

なお、堤防が崩れる原因は、主に、越水、洗掘、浸透の3つがあげられます。

越水(えっすい)

堤防から河川の水があふれ出ることを越水と言い、その水の流れにより堤防の裏の斜面が削られます。削られたところに水が流れ込むことで次第に堤防が弱くなり、崩れてしまいます。



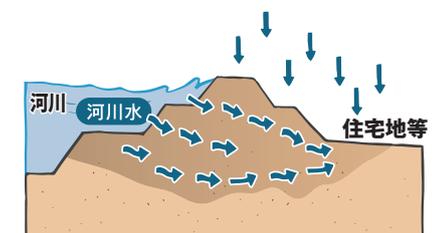
洗掘(せんくつ)

河川の水の流れや勢いなどによって、堤防の表の斜面が削り取られることを洗掘と言います。削られたところに水が流れ込むことで次第に堤防が弱くなり、崩れてしまいます。



浸透(しんとう)

河川の水位が高い場合、水圧によって堤防の裏の斜面から河川の水が漏れだし、堤防が侵食されることを浸透と言います。漏れだした箇所さらに水が流れ込むことによって拡大し、崩れてしまいます。



もしもの時に備えよう

あなたや家族の生命を守るために、備えましょう

近年、台風の大型化や積乱雲の発生によるゲリラ豪雨が増え、局地的な狭い範囲に激しい雨が降ることが多くなっています。

いつやって来るか分からない地震と違い、台風や集中豪雨は天気予報からある程度予測できます。普段から気象情報を入手し事前対策を取ることで、被害を最小限に抑えられます。

家族で話し合おう

防災意識を高めるためにも、まず家族で防災について話し合みましょう。

家族での確認項目

- 集合場所・避難場所・避難経路
- 災害時の身の守り方
- 家族が離れているときの連絡方法
- 自宅や会社、学校周辺の危険箇所
- 災害時の持出品
- 災害時の役割分担

安全な避難先とルートの確認

避難所までの経路は、あらかじめ自分たちで確認しておきましょう。特に、氾濫しやすい小河川や土砂災害の危険性のある場所などを考慮し、実際に歩いて、安全に通行できるか確認しておきましょう。



家のまわりの点検・整備

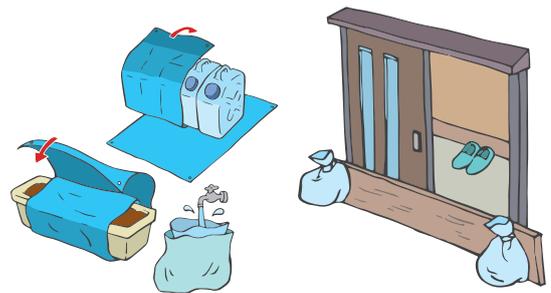
台風などが近づいてくる前に家の前の側溝が詰まっていないか確認し、水はけを良くしておきましょう。また、風で飛ばされる植木鉢やゴミ箱などは固定するか、家の中などに移動させておきましょう。窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要ならば外から板を打ち付けて補強しましょう。



家庭でできる簡易水防の作成

浸水深が低いときは、家庭にあるものを使って、水の浸入を減少させることができます。

大きめのゴミ袋やポリタンク等に水を入れて水の浸入口となるところに並べたり、長めの板と土のうで臨時の止水壁を作ったりして、被害を抑える準備をしましょう。



非常持出品の事前準備

雨の状況によっては、避難を余儀なくされることもあります。避難する時に持ち出す『非常持出品』を事前に準備しておきましょう。特に、常用薬など無くてはならないもので、他の人が持っていないものには注意が必要です。

持出品リスト

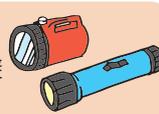
■飲料水

ペットボトル入りは持ち運びに便利。



■懐中電灯

停電時や夜間の避難には必需品。



■救急薬品

消毒薬やばんそうこうなど。持病のある人は常用薬も。



■非常食

調理せずに食べられる物。賞味期限をチェックして定期的に交換を。



■携帯ラジオ

F M、A Mの両方聴けるタイプを。予備の電池も忘れずに。



■ヘルメット (防災ずきん)

飛来物や落下物、転倒事故から頭部を守るため。



■その他

現金(公衆電話用の小銭も用意)、オイルライター、身分証明書のコピー、軍手、衣類など。

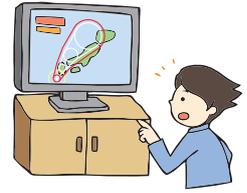


無理せず安全な避難を心がけよう

万一、洪水の危険が迫ってきたら冷静に判断しながら安全かつ速やかな避難を心がけてください。

正確な情報収集と早めの避難を！

テレビやラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意し、危険を感じたら早めの避難をすることが重要です。役場や消防署からの呼びかけがあった場合には速やかに避難してください。



車での避難は危険性が高いため、控える！

車での避難は緊急車両等の通行の妨げになるだけでなく、浸水した場所で動けなくなることや、川や水路などへの転落、渋滞により避難ができなくなるなど、大変危険です。特別な場合を除き、車での避難は控えましょう。



動きやすい服装と集団での避難を！

自宅の周りが浸水していなくても、避難所への途中の道路などが浸水していることも考えられます。そのため、避難するときは、持ち物はリュックに入れ、手は自由にし、運動靴をはくなど動きやすい服装をし、2人以上での行動を心がけましょう。



氾濫した水は勢いが強く、深さ 50cm でも危険！垂直避難も！

洪水により氾濫した水は勢いが強く、水深が 50cm あると大人でも歩くのが困難です。そのため、避難のための十分な時間が確保できない場合は、緊急避難として高い堅牢な建物や自宅の2階などに垂直避難することも必要です。



氾濫した水は濁っており、水面下は危険！

洪水により氾濫した水は土砂が流れ込んでいるため茶色く濁っており、水面下の側溝や水路、ふたが開いたマンホールの穴が見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、長い棒で足元の安全を確認しながら移動しましょう。



参考：気象庁の発表する警報等(大雨/洪水)

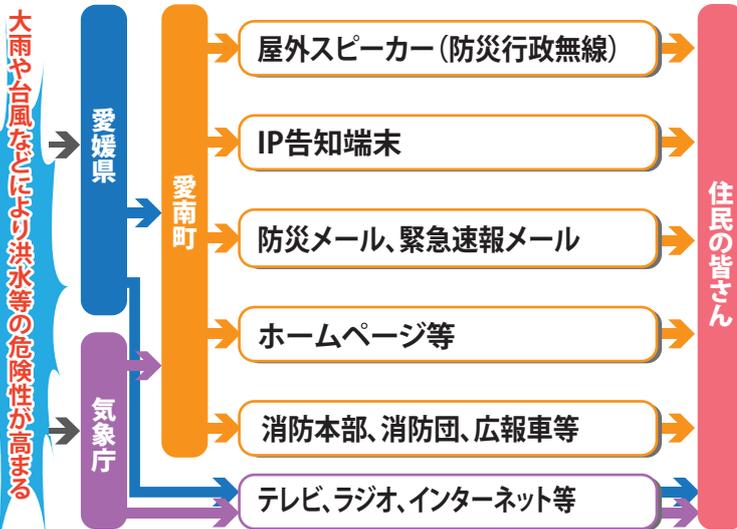
警報等の種類	発表されるタイミング	求められる行動
特別警報 (大雨)	重大な災害が起こるおそれが著しく大きいと予想される場合。 数十年に一度の大雨	避難勧告等に従い、直ちに避難所等へ避難！ 外出が危険な場合は、家の中で少しでも安全な場所へ移動！
警報 (大雨/洪水)	重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合。	防災メール等の情報に注意し、速やかな避難ができるように準備！ 被災のおそれがある場合は速やかな自主避難を！
注意報 (大雨/洪水)	災害が起こるおそれがあると予想される場合。	携帯電話の電源が入っているか、電池が切れていないか確認！ テレビ・ラジオ等からの各種情報に注意！
記録的短時間大雨情報	大雨警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析した時に発表される情報。	1時間雨量 100mm
土砂災害警戒情報	避難にかかる時間を考慮して、2時間先までに、命に危険を及ぼす土砂災害が発生してもおかしくない状況になると予測されたときに発表される情報。	

避難情報等の入手方法を知ろう

避難情報の伝達方法

(町や県などから住民の皆さんへ伝達)

気象情報や避難に関する情報が次の方法で伝達されます。避難勧告や避難指示などに応じて適切に対応しましょう！



避難情報の入手方法

(住民の皆さんが主体的に入手)

スマホやテレビなどさまざまな手段を用いて、気象情報や避難情報を積極的に入手しましょう！

■川の防災情報(国土交通省)

☞水位観測所地点の水位を断面で見ることができたり、1～3時間後の予想水位も見ることができます。



■えひめ河川メール(愛媛県)

☞事前登録すれば水位や降雨量が基準値を超過した場合などにお知らせメールが届きます。



■えひめの防災・危機管理(愛媛県)

☞緊急情報や避難勧告等の発令状況が確認できます。また、土砂災害や地震情報も確認できます。



■地上デジタル放送(dボタン)

☞NHKデータ放送(dボタン)で避難勧告等の発令や避難所の開設状況等の避難情報が確認できます。



災害時の安否確認方法

大きな災害の場合、電話が繋がらなくなることがあります。家族や友人の安否を確認する方法を把握しておきましょう！

■災害用伝言ダイヤル「171」

●大規模災害時にサービスが開始される災害用伝言ダイヤル「171」は、局番なしの「171」に電話をかけることで、安否の状況を音声で録音、再生できるサービスです。

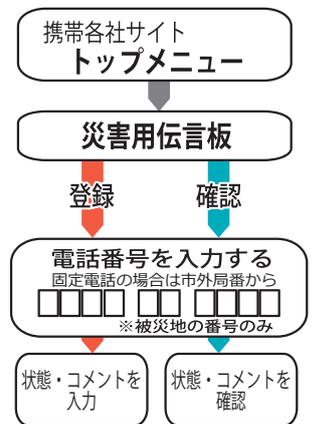
●被災地の方の固定電話や携帯電話の番号をキーに、伝言をやりとりすることができます。



■災害用伝言板(web171等)

●災害等の発生時、被災地域の居住者がインターネットを経由して伝言板サイトにアクセスし、電話番号をキーとして伝言情報(テキスト)を登録することが可能なサービスです。

●NTTのweb171をはじめ、携帯各社で提供されています。あらかじめサイトへのアクセスやアプリのダウンロードなど、利用方法を調べておくことが重要です。



参考となるその他の情報

●愛南町総合防災マップ

愛南町総合防災マップは、津波や土砂災害などによって被害が想定される箇所や避難場所の位置などを地図に示したものです。本ハザードマップと合わせて、普段から災害に対する備えに取組み、被害を最小限に抑えましょう。



●愛南町ため池ハザードマップ

南海トラフ地震などによって、ため池の堤防が決壊した場合を想定し、その氾濫水が到達する可能性のある区域の最大範囲と予想される浸水の深さを表示したため池ハザードマップを公開しています。



わが家の防災メモ

わが家の避難所

火事・救急 **119** 番

家族の集合場所

(離ればなれになってしまった時)

警察 **110** 番

緊急 連絡先

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
役場関係		電力会社	
消防署		水道	
警察署			
ガス会社			

家族 連絡先

氏名	電話番号 (勤務先・学校等)	住所	メモ

親戚・知人 連絡先

氏名	電話番号	住所	メモ

家族の 救急用 データ

氏名	生年月日	血液型	アレルギー	常用薬	病気

緊急 ダイヤル

本庁	72-1211	県立南宇和病院	72-1231	四国電力	
御荘支所	72-1111	愛南警察署	72-0110		0120-410-523
		愛南町消防署	72-0119	役場水道課	72-0835
